

CADD®

# CADD<sup>®</sup>-Solis

Medication Safety Software



Administrator 3.3

Administratorヘルプ°

smiths medical



# 目次

Administrator ヘルプ .....	1
概要 .....	1
警告 .....	2
重要な注意 .....	3
システム設定 .....	3
ポンプ選択 .....	3
データベースに接続 .....	4
Administrator 自動ログアウトの設定 .....	5
CADD®-Solis ポンプ設定 .....	5
ユーザーアカウント管理 .....	5
ポンプ通信 .....	10
システムツールを使用 .....	12
プロトコルとプロトコルライブラリ .....	15
プロトコルとは .....	15
プロトコルライブラリとは .....	15
データベースとは .....	15
プロトコルライブラリ .....	16
治療、種別、薬剤 .....	21
プロトコル .....	25
ポンプ通信 .....	31
CADD-Prizm(R) PCS II ポンプ .....	31
CADD(R)-Solis ポンプ .....	32
レポート .....	35
ログレポート .....	35

ポンプレポート ..... 36

## Administrator ヘルプ

### Administrator アプリケーションについて

#### CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator

© すべての 2011 著作権は Smiths Medical が保有します。

このコンピュータ製品は、著作権および国際条約によって保護されています。このプログラムまたはその一部を許可なく複製または配布した場合、民法上および刑法上の重罪となる可能性があります。法律下における最大限の範囲で起訴されます。

CADD-Solis、CADD-Prizm、CADD、および Smiths Medical のデザインマークは、Smiths Medical の商標です。®マークの商標は米国および数カ国で登録されています。その他すべての名称およびマークは、それぞれの所有者の商標、商品名またはサービスマークです。

### 概要

CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator は、CADD®-Solis (モデル 2100、モデル 2110)、CADD®-Solis VIP (モデル 2120)、CADD-Prizm® PCS II(Rev.H)携帯型輸液ポンプと使用できるように設定できます。(注意: CADD-Prizm PCS II 携帯型輸液ポンプは Revision によらず日本では販売していません。)

CADD™®-Solis Medication Safety Software - Administrator は次の用途で使用できます。

- プロトコルとプロトコルライブラリの作成・管理
- ユーザーアカウント、権限、プロトコルライブラリへのアクセスの管理
- ポンプへの送信前に、ユーザーに許可するプロトコル編集範囲の設定
- プロトコルライブラリの送信や履歴の取得(CADD®-Solis 携帯型輸液ポンプ、CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプに限る)
- 単一プロトコルの送信(CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプに限る)
- ポンプ ID の送信または取得(CADD-Prizm® PCS II 携帯型輸液ポンプに限る)
- 薬剤 ID バーコードラベルの印刷
- ログやレポートの表示、印刷、エクスポート

CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator には選択したプロトコライブラリに適用される、次の3つの機能(タブ)があります。

- **ライブラリ一般設定:** このタブでは、選択したプロトコライブラリが適用されるポンプの表示、プロトコライブラリ説明の表示、プロトコライブラリのバージョン管理（プロトコライブラリの公開または復元）、ライブラリサマリレポートの表示、そして Point of Care ユーザー用に他のオプションを設定することができます。
- **治療、種別、薬剤の設定:** このタブではプロトコライブラリに関する治療や種別を作成・編集できます。薬剤名、単位、濃度の組み合わせもここで作成できます。薬剤の組み合わせにはそれぞれ、薬剤 ID を割り当て、薬剤 ID バーコードラベルを印刷できます。
- **プロトコル設定:** このタブはプロトコライブラリ内の治療、種別、薬剤からプロトコルを作成する際に使用できます。プロトコルの編集や削除、プロトコル詳細レポートや処方箋フォームの印刷、プロトコルの分類、およびプロトコルテンプレートの管理もできます。

上記の3つの機能のほか、ファイルメニューにはライブラリ管理機能もあります。ポンプ通信メニューには、プロトコルやライブラリの送信やポンプレポートの検索/表示に関するコマンドがあります。アプリケーションの構成機能、ユーザー管理、アーカイブおよびバックアップ/復元機能は設定メニュー下にあります。

## 警告

**CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator を使用する前に、CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator インストール/技術マニュアルとこれらのヘルプトピックをよく読んでください。**

**警告、注意、指示に厳重に従わない場合は患者が死亡または重傷を負う恐れがあります。**

- 各施設で決めたプロトコライブラリのデータベース情報のバックアップ・復元プロセスに従ってください。
- 体重に基づいた送液パラメータを使用する際は、必ず体重をすべてキログラムで入力してください。
- 体重に基づいたプロトコルを使用する際の持続投与速度は単位/キログラム/時間の入力を使用してプログラムされており、追加投与量または PCA 投与量、送液制限量は単位/キログラムの入力を使用してプログラムされています。ポンプの LCD スクリーンには、持続投与速度が 1 時間あたりの単位(ミリグラム、マイクログラム、ミリリットル)、追加投与量または PCA 投与量、送液制限量が単位(ミリグラム、マイクログラム、ミリリットル)で表示されています。このためポンプでは投与を単位/時間または単位で調整してください。
- バーコードスキャナーやキーボードを使用して薬剤に薬剤 ID を割り当てる際は、正しいバーコード情報が入力されているかを直接確認します。
- 新プロトコルや編集したプロトコルをアクティブにしたり、ポンプに送信できる状態にする前に、別のユーザーがこのようなプロトコルをそれぞれもう一度検証することを強くお勧めします。
- バーコードラベルを印刷する際は、ラベルが薬剤と一致していることを直接確認してください。

- 各施設では印刷したバーコードラベルを貼って薬剤を識別する際に、明確に表示したプロセスに必ず従ってください。
- バーコードをスキャンして薬剤コードを割り当てる際や読み込む際は常に、スキャン後に正しいバーコード情報がプログラムに入力されたことを目視確認してください。
- ケーブルに破損がないか確認してください。内部のリード線などが見えている場合やコネクタピンまたは配列ピンが曲がっていたり破損している場合はそのケーブルを使用しないでください。
- プロトコルライブラリデータベースが入っているコンピュータへのログインや物理的アクセスは、不正なユーザーアクセスを防ぐために制限することを強くお勧めします。
- ポンプのプログラミング後には必ずポンプのプログラムをよく確認し、ポンプのプログラミングが完了したことを検証してください。
- 古くなったプロトコルライブラリまたはプロトコルライブラリデータベースを使用すると、ポンプが不正にプログラミングされる場合があります。各施設において、プロトコルライブラリデータベースをアーカイブ、バックアップ、復元するためのプロセスを明確に示しておく必要があります。

### 重要な注意

- CADD™-Solis Medication Safety Software - Administrator は医療従事者の代わりに患者アセスメントを行うものではありません。
- ユーザーは使用前に、CADD®-Solis 携帯型輸液ポンプ、CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプ、CADD-Prizm® PCS II(Rev.H)携帯型輸液ポンプの機能、操作、付属品について十分に理解しておいてください。
- ヘルプのトピックは CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator のみに関するものです。CADD®-Solis 携帯型輸液ポンプ、CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプ、CADD-Prizm® PCS II(Rev.H)携帯型輸液ポンプの詳しい使用方法、仕様、警告、操作のための追加情報などは、ポンプに付属の取扱説明書をご覧ください。
- コンピュータの OS ソフトウェア、.NET Framework、SQL を将来更新する場合、その他のソフトウェアを Administrator コンピュータまたは Point of Care コンピュータにインストールする場合、[地域と言語オプション][標準と形式]設定を変更する場合、インストールしたコンポーネントを削除する場合、CADD™-Solis Medication Safety Software の操作に影響を与えることがあります。各施設では、既存のソフトウェアを新しい OS バージョンと適合させるためのプロセスを明確に示しておく必要があります。
- 各施設では、ネットワークが使用できない場合や異なるプロトコルライブラリが必要となることが原因で Administrator ユーザーが利用できない場合に使用できるプロトコルライブラリを作成することを検討してください。
- ソフトウェアが操作できないことやポンプに接続できないことが理由で CADD™-Solis Medication Safety Software をポンプのプログラミングに使用できない場合は、各施設の指針および手順に従い、ポンプのプログラミングを手動で行ってください。

### システム設定

#### ポンプ選択

ポンプを選択して、プロトコライブラリを作成できるポンプと、ユーザーが通信できるポンプを決めます。CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator は次のポンプと共に使用するように構成できます。

- CADD®-Solis 携帯型輸液ポンプ (モデル 2100、モデル 2110)
- CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプ (モデル 2120)
- CADD-Prizm® PCS II (Rev.H) 携帯型輸液ポンプ

ポンプ選択は CADD™-Solis Medication Safety Software のインストール中に行いますが、プロトコル管理者権限を持つユーザーによるインストール後に変更できます。

次の手順に従いポンプの選択を変更します。

1. メニューバーから **設定> ポンプ選択** をクリックします。
2. [ポンプ選択]ダイアログボックスで、ポンプを追加するにはそのボックスにチェックマークを入れます(ポンプを削除するにはチェックマークを外します)。
3. **OK** をクリックします。

#### データベースに接続

CADD™-Solis Medication Safety Software データベースの接続設定は通常、CADD™-Solis Medication Safety Software のインストール中に設定されます。システム管理者権限を持つユーザーは、これらの設定を必要に応じて変更できます。データベースの接続設定を入力すると、インストールされたこの CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator を使用する他のユーザーは権限が与えられているプロトコライブラリにログインやアクセスすることができます。

**注:** データベースに接続するには、各施設からデータベースに対する許可を得て、適切なデータベース場所や接続設定を用意する必要があります。詳細は、各施設の CADD™-Solis Medication Safety Software を担当する管理者に問い合わせてください。

次の手順に従いデータベースの場所設定を変更します。

1. メニューバーから **設定> データベースの場所** をクリックします。
2. [データベースの場所]ダイアログボックスでデータベースの場所と接続の設定を入力します。
  - サーバ名
  - インスタンス名
  - データベース名
  - ポート番号
  - SQL server ユーザーID
  - SQL server ユーザーパスワード
3. [権限を検証]エリアで、CADD™-Solis Medication Safety Software の **ユーザーID** と **ユーザーパスワード** を入力します。データベースの場所や接続に関する変更を適用するには、このユーザーアカウントにシステム管理者権限が必要です。
4. **OK** をクリックします。



## Administrator自動ログアウトの設定

ユーザーはアプリケーションの無操作状態が一定時間続くと、自動的に Administrator アプリケーションからログアウトされます。プロトコル管理者権限を持つユーザーは、この Administrator 自動ログアウト設定を変更できます。

**注:** Administrator アプリケーションやプロトコルライブラリへの不正なアクセスを防ぐために、ユーザーにはアプリケーションを使用していない時はログアウトボタンをクリックして手動でログアウトすることをお勧めします。

Administrator 自動ログアウト時間を設定するには次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **設定 > Administrator 自動ログアウト** を選択します。
2. [Administrator 自動ログアウト]ダイアログボックスで、Administrator アプリケーション無操作時の自動ログアウトまでの時間(分単位)を選択します。
3. **OK** をクリックします。

## CADD®-Solisポンプ設定

CADD®-Solis ポンプでは、ポンプ通信中（すなわちライブラリ送信、プロトコル送信または履歴の取得時）に CADD™-Solis Medication Safety Software がポンプのクロックをローカル PC 日時にセットできるように選択することができます。

CADD®-Solis ポンプタイムを PC クロックタイムにセットできるようにするには：

1. メニューバーから **設定 > CADD®-Solis ポンプ設定** を選択します。
2. [CADD®-Solis ポンプ設定] ダイアログボックスで、**[ポンプのクロックを PC クロックタイムにセット]**の横のチェックボックスをクリックしてチェック印を入れます。

## ユーザーアカウント管理

### ユーザーアカウント管理

システム管理者権限またはプロトコル管理者権限を持つユーザーはユーザーアカウントの作成や管理を行ったり、ユーザーアプリケーションに関するユーザー権限やプロトコルライブラリへのアクセスを設定することができます。ユーザーアカウントは削除することもできます。

ユーザーアカウントやアカウント権限を追加または編集するには次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **設定 > ユーザーアカウント > ユーザーアカウント管理** を選択します。  
[ユーザーアカウント管理]ダイアログボックスが開きます。
2. 新規ユーザーを追加するには、**新規ユーザー**ボタンをクリックします。  
—または—  
既存のユーザーを変更するには、リストからユーザーIDを選択します。
3. 新規ユーザーを作成する場合は、**ユーザーID**、**パスワード**を入力してから、ユーザーの**パスワードを確認**します。ユーザーIDとパスワードには少なくとも**3文字の英数字(アルファベット、数字または両方を組み合わせたもの)**を含める必要があります。ユーザーは [ユーザーパスワード変更](#)機能を使用してパスワードを変更できます。

4. ユーザーの権限を次の中から選択します。

権限	機能
プロトコル管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ポンプアプリケーションの選択</li> <li>● ログとポンプレポートへのアクセス</li> <li>● ユーザーアカウントの管理</li> <li>● ライブラリ権限の管理</li> <li>● ユーザーのエクスポート/インポート</li> <li>● プロトコルライブラリおよび使用ログのエクスポート/インポート</li> <li>● プロトコルライブラリの作成、保存、削除</li> <li>● プロトコルライブラリの更新と復元</li> <li>● Administrator 自動ログアウトの設定</li> <li>● すべてのプロトコル送信およびライブラリ送信機能(後述)</li> </ul>
プロトコル送信	CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator(CADD®-Solis VIP 歩行ポンプのみ)または Point of Care (CADD®-Solis 携帯型輸液ポンプ、CADD-Prizm® PCS II 携帯型輸液ポンプのみ)から、1つのプロトコルをポンプに送信する。
ライブラリ送信	CADD™ Solis Medication Safety Software – Administrator(CADD®-Solis 携帯型輸液ポンプ、CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプのみ)または Point of Care (CADD®-Solis 携帯型輸液ポンプのみ)から、プロトコルライブラリをポンプに送信する。
システム管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● データベース/ライブラリへの接続</li> <li>● ユーザーアカウントの管理</li> <li>● ライブラリ権限の管理</li> <li>● ユーザーのエクスポート/インポート</li> <li>● プロトコルライブラリおよび使用ログのエクスポート/インポート</li> <li>● データのアーカイブ</li> <li>● データベースのバックアップ/復元</li> <li>● 2.0 データベースからデータをインポート</li> <li>● CADD-Prizm® PCS II 携帯型輸液ポンプからポンプ ID を取得または送信</li> </ul>

5. プロトコルライブラリが作成されていれば、ライブラリのリストが表示されます。ユーザーにプロトコルライブラリへのアクセスを許可するには、ユーザーアクセスを許可するライブラリの横にあるチェックをクリックしてオンにします。

注: [ユーザーアカウント管理] ウィンドウで[ユーザーリスト] ボタンをクリックし、ドロップダウンリストからライブラリ名を選択しても、そのライブラリへの権限を持っているユーザーを表示できます。変更を表示した後や変更を行った後は**保存**または**閉じる**をクリックします。

6. 完了したら**保存**をクリックします。

ユーザーアカウントを削除するには次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **設定 > ユーザーアカウント > ユーザーアカウント管理** を選択します。
2. 削除するユーザーを **ユーザーID** ドロップダウンリストから選択します。
3. **削除** をクリックします。

## ライブラリへのアクセス権の設定

プロトコル管理者またはシステム管理者権限を持つユーザーはライブラリへのアクセス権を設定し、ユーザーに特定のプロトコルライブラリへのアクセスを許可することができます。

ユーザーにライブラリへのアクセス権を与えるには次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **設定 > ユーザーアカウント > ライブラリへのアクセス権** を選択します。
2. [ライブラリへのアクセス権]ダイアログボックスで **ライブラリ名** ドロップダウンリストから、アクセスを許可するプロトコルライブラリを選択します。
3. アクセスを許可する各ユーザーに対して、**ライブラリ内** ボックスをクリックしてチェック印を入れます。

**注:** ユーザーにプロトコル送信またはライブラリ送信へのアクセスが認められているかどうかは、ユーザーアカウントに設定されている権限によります。詳細については、[ユーザーアカウント管理](#) を参照してください。

4. **[保存]** をクリックします。

## ユーザーパスワード変更

ユーザーは CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator でパスワードを変更できます。パスワードを変更するために Administrator program プログラムにログインする必要はありません。ユーザーパスワードを変更するとき、現在のパスワードが必要です。

ユーザーパスワードを変更するには次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **設定 > パスワード変更** を選択します。
2. ユーザーIDを入力します。
3. 古いパスワードを入力します。
4. 新しいパスワードを入力し、もう一度そのパスワードを **[新しいパスワードを確認]** フィールドに入力して確認します。
5. **OK** をクリックします。パスワードを変更したことを確認するメッセージが表示されます。

## ユーザーのインポート/エクスポート

プロトコル管理者またはシステム管理者権限を持つユーザーはユーザーリストを、ブランクのテンプレートまたは現在定義されているユーザーを含むテンプレートとしてファイルにエクスポートできます。ファイルは編集可能なカンマ区切り (.CSV) ファイルとしてエクスポートされます。このファイルを編集することで、ユーザーの追加やユーザー権限の変更を行い、ユーザ

ーリストを管理できます。変更したユーザーリストファイルを Administrator プログラムにインポートしてからデータベース内のユーザーを更新できます。

ユーザーリストをエクスポートするには次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **設定 > ユーザーアカウント > ユーザーをインポート/エクスポート** を選択します。
2. 現在のユーザーリストをエクスポートするには、**すべてのユーザー** を選択します。  
 – または –  
 ブランクのユーザーリストをエクスポートするには、**ブランクのユーザーテンプレート** を選択します。
3. **エクスポート** をクリックします。
4. [エクスポートファイル名を選択] ウィンドウで、**保存場所** ダイアログを使用してファイル場所を選択します。
5. **ファイル名** ダイアログでファイル名を入力します。
6. **保存** ボタンをクリックしてユーザーリストをエクスポートします。

**注:** エクスポートされたユーザーリストファイルはセキュリティ保護されていません。管理者にはインポート前にファイルの内容を確認することをお勧めします。

エクスポートしたユーザーリストファイルまたはテンプレートを編集するには、次の手順に従ってください。

1. CSV ファイルを編集できるアプリケーション (Microsoft® Excel® など) でエクスポートしたファイルを開きます。  
**注:** エクスポートしたユーザーリストからユーザーを削除しても、データベースからユーザーを削除することはできません。データベースからユーザーを削除するには、[ユーザーアカウント](#) 機能を使用してください。
2. 必要に応じて **USERID** 列にユーザーを追加してユーザーリストを編集します。
3. 必要に応じて、次の各権限に関して **TRUE** (権限を与える) または **FALSE** (権限をあたえない) という言葉を追加してユーザーの権限を設定します。

権限	機能
プロトコル送信	CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator (CADD®-Solis VIP 歩行ポンプのみ) または Point of Care (CADD®-Solis 携帯型輸液ポンプ、CADD-Prizm® PCS II 携帯型輸液ポンプのみ) から、1つのプロトコルをポンプに送信する。
ライブラリ送信	CADD™ Solis Medication Safety Software – Administrator (CADD®-Solis 携帯型輸液ポンプ、CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプのみ) または Point of Care (CADD®-Solis 携帯型輸液ポンプのみ) から、プロトコルライブラリをポンプに送信する。
システム管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● データベース/ライブラリへの接続</li> <li>● ユーザーアカウントの管理</li> <li>● ライブラリ権限の管理</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ユーザーのエクスポート/インポート</li> <li>● プロトコライブラリおよび使用ログのエクスポート/インポート</li> <li>● データのアーカイブ</li> <li>● データベースのバックアップ/復元</li> <li>● 2.0 データベースからデータをインポート</li> <li>● CADD-Prizm® PCS II 携帯型輸液ポンプからポンプ ID を取得または送信</li> </ul>
プロトコル管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ポンプアプリケーションの選択</li> <li>● ログとポンプレポートへのアクセス</li> <li>● ユーザーアカウントの管理</li> <li>● ライブラリ権限の管理</li> <li>● ユーザーのエクスポート/インポート</li> <li>● プロトコライブラリおよび使用ログのエクスポート/インポート</li> <li>● プロトコライブラリの作成、保存、削除</li> <li>● プロトコライブラリの更新と復元</li> <li>● Administrator 自動ログアウトの設定</li> <li>● すべてのプロトコル送信およびライブラリ送信機能 (後述)</li> </ul>

4. 変更を CSV 互換形式で保存します。

ユーザーリストをインポートするには次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **設定** を選択し、**ユーザーアカウント > ユーザー** をインポート/エクスポートをクリックします。
2. **インポート** をクリックします。
3. [インポートファイル名を選択] ウィンドウで、**検索場所** ドロップダウンリストを使用してディレクトリとファイルを**検索** します。
4. インポートするファイルをクリックすると、**ファイル名** ドロップダウンリストに追加されます。**開く** ボタンをクリックしてユーザーリストをインポートします。

ユーザーリストをインポートすると、**新しいファイル** によってデータベース内のユーザーが更新されます。メニューバーから **設定** を選択し、**ユーザーアカウント > ユーザーアカウントを管理** をクリックしてユーザーアカウントを必ず確認します。

**注:** 新規ユーザーにはデフォルトのパスワード: **password** が割り当てられます。ユーザーは [ユーザーパスワード変更機能](#) を使用してパスワードを変更できます。

## ユーザーパスワード期限を設定

システム管理者権限を持っているユーザーは、CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator と Point of Care のすべてのユーザーに対しパスワード期限に関するポリシーを設定できます。パスワード期限を有効にすると、ユーザーにパスワードを定期的に変更するように求めることで、セキュリティが強化されます。パスワード期限が設定され、ユーザーはパスワードが期限切れになる前にパスワードを変更するように求められます。

ユーザーパスワード期限を設定するには次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **設定** > **ユーザーアカウント** > **ユーザーパスワード期限** を選択します。
2. [ユーザーパスワード期限]ダイアログで、**日数** オプションを選択してからパスワードの有効日数を設定します。
3. **OK** をクリックします。

## ポンプ通信

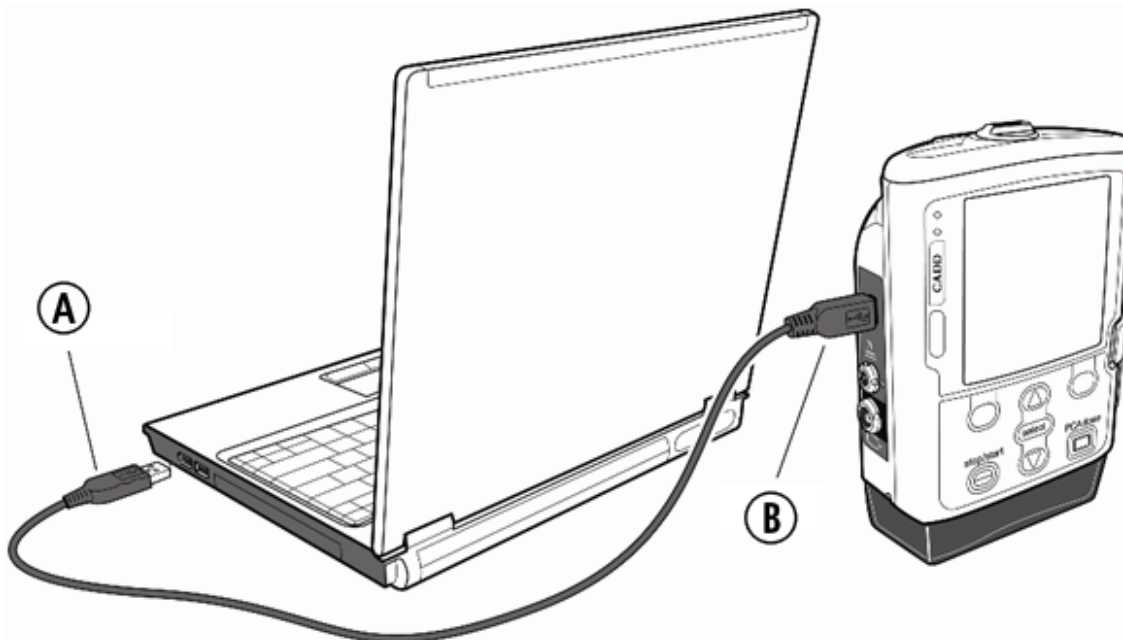
### CADD®-Solis ポンプまたは CADD®-Solis VIP ポンプに接続

PCをUSBケーブルを介してCADD®-Solis (モデル 2100、モデル 2110)、CADD®-Solis VIP (モデル 2120)携帯型輸液ポンプに接続する際は、CADD®-Solis Medication Safety Software - Administratorを使用してポンプに[プロトコライブラリ](#)や[プロトコルを送信](#)できます。また、[ポンプの履歴を取得](#)したりポンプのレポートを表示する際にも使用できます。

### USBケーブル接続

USB ケーブルには、PC に接続する USB タイプ A プラグとポンプに接続する USB タイプミニ B プラグが必要です。これは標準 USB ケーブルで、コンピュータグッズ販売店で購入できます。

**注:** 2 メートル(6.5 フィート)を超える USB ケーブルは使用しないでください。この長さを超える場合は、ポンプが外部からの電磁波の影響を受ける可能性があります。



**A**-USB タイプ A プラグ

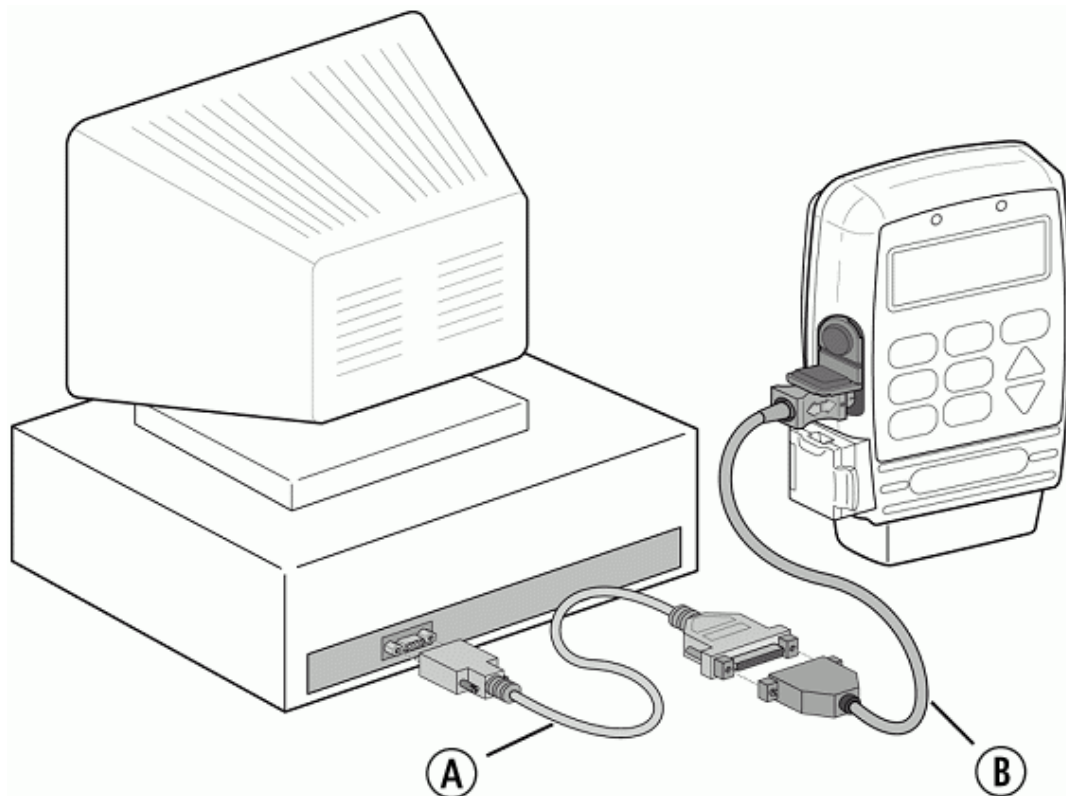
**B**-USB タイプミニ B プラグ

## CADD-Prizm® PCS II ポンプに接続

PCがインターフェースケーブル/ヌルモデムケーブルセットを介してCADD-Prizm® PCS II(Rev.H)携帯型輸液ポンプに接続している場合は、CADD™-Solis Medication Safety Software – Administratorを使用してポンプに[ポンプIDを送信](#)、ポンプから[ポンプIDを取得](#)、ポンプにプロトコルを送信することができます(CADD-Solis® Medication Safety Software–Point of Care 使用時)。

### インターフェースケーブル/ヌルモデムケーブルセット

インターフェースケーブル/ヌルモデムケーブルセット(品番 21-6144)は最寄りの[弊社営業所](#)から購入できます。PCの接続や通信ポートの設定方法については、以下の図や操作方法を参照してください。



A-ヌルモデムケーブル

B-インターフェースケーブル

CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator はインストール時に、COM1 ポートでポンプとの通信が行えるように設定されます。COM1 以外のポートから PC に接続する場合は、Administrator のポート設定を変更する必要があります。

**COM** ポートを設定するには次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **設定 > COM ポートを選択** を選択します。
2. [COM ポートを選択]ダイアログボックスに、正しい COM ポート番号を入力します。

**注:** 選択するポートを探す必要がある場合は、[システムのプロパティ]に移動します (Windows の[コントロールパネル]で[システム]を選択)。[システムのプロパティ]ダイアログボックスのハードウェアタブで、**デバイスマネージャ**ボタンをクリックします。ポート (COM & LPT)横にある**+**をクリックします。そこに表示されている **COM** ポートを入力します。

3. **OK** をクリックします。

## システムツールを使用

### データをアーカイブ

システム管理者権限を有するユーザーは、保存目的のためにデータのアーカイブ機能を使用してすべてのポンプ履歴および管理者使用ログデータをデータベースからファイルに移動することができます。データをアーカイブする際は、選択された日付以前のデータベースのデータを含む **XML** ファイルが作成されます。

**注:** アーカイブデータの保持については、施設のプロセスに従ってください。

---

**注意:** データのアーカイブ機能は **Administrator** ログデータとポンプデータをデータベースから恒久的に削除します。データがアーカイブされると、それを **CADD™-Solis Medication Safety Software** にインポートして表示したり報告することはできません。

---

データをアーカイブするには:

1. メニューバーから**設定 > システムツール**を選択します。
2. [システムツール]ダイアログボックスで、**[データのアーカイブ]**タブからアーカイブの期間を選択します。選択した日付以前のすべてのログデータがデータベースから削除され、アーカイブされます。
3. **[参照]**をクリックして、アーカイブのために使用する場所とファイル名を選択し**[保存]**をクリックします。
4. **[アーカイブ]**をクリックします。
5. 確認メッセージで、**[はい]**をクリックしてアーカイブして続行するか、または**[いいえ]**をクリックして取り消します。

### データベースをバックアップ

システム管理者権限のあるユーザーは、アーカイブ目的および必要な場合は将来の復元のために、**[バックアップデータベース]**機能を使用して現在の **CADD™-Solis Medication Safety Software** データベースのバックアップをファイルに保存することができます。バックアップデータベースは、名前をつけて、あなたが選択した場所 (ネットワークドライブやリムーバブルメディアなど) に **Smiths Medical Data** ファイル(\*smd)として保存できます。

---

**重要:** 各施設のプロセスに従って、データベースのバックアップを保存、保持、復元してください。

---

---

**警告:** データベースを復元すると、現行データベースはすべて削除され、データベース (すべてのライブラリ、プロトコル、ユーザーアカウント設定を含む) は、バックアップが作成さ



れた時点の状態に戻ります。あなたの施設は、ライブラリまたはプロトコルをポンプに送る前に、復元したデータベースからのすべてのライブラリおよびプロトコルを評価し、必要な場合は調整するための明確に定義されたプロセスに従う必要があります。それを怠った場合は患者に死や重症をもたらす危険があります。

データベースをバックアップするには：

1. メニューバーから**設定** > **システムツール**を選択します。
2. [システムツール]ダイアログボックスの[バックアップデータベース]タブで、[参照]をクリックしてバックアップに使う場所とファイル名を選択してから、[保存]をクリックします。
3. [バックアップデータベース]をクリックします。
4. バックアップが完了するとメッセージが表示されます。**OK**をクリックします。

バックアップのリマインダを設定するには：

1. [バックアップリマインダ]で[オン]をクリックして選択し、データベースをバックアップしてからの**日数**を特定します。データベースでは、Administrator プログラムがバックアップの実行を通知します。
2. [設定を保存]をクリックします。
3. 設定が保存されたことを確認するメッセージが表示されます。**OK**をクリックします。

**注：** バックアップのリマインダメッセージは、Administrator プログラムを使用しているリマインダ継続時間が経過した場合のみ表示されます。

## データベースを復元

データを回復する目的で、システム管理者権限を持つユーザーは[データベースの復元]機能を使って以前にバックアップしたCADD™-Solis Medication Safety Softwareデータベースを復元することができます。データベースを復元するには、新規（空）または既存のデータベースへの[データベース接続](#)が確立されていなければなりません。さらに、以前にバックアップしたデータベースが保存されているSmiths Medical Dataファイル(\*smd)へのアクセス権がなければなりません。

**重要：** 各施設のプロセスに従って、データベースのバックアップを保存、保持、復元してください。

**警告：** バックアップからデータベースを復元すると、現在のデータベースはすべて削除され、データベース（すべてのライブラリ、プロトコル、ユーザーアカウント設定を含む）は、バックアップが作成された時点の状態に戻ります。ライブラリまたはプロトコルをポンプに送る前に、復元したデータベースからのすべてのライブラリおよびプロトコルを評価し、必要な場合は調整するための明確に定義された各施設のプロセスに従ってください。それを怠った場合は患者が死亡または重症を負う危険があります。

データベースを復元するには：

1. メニューバーから**設定** > **システムツール**を選択します。

2. [システムツール]ダイアログボックスの[データベースの復元]タブで、[参照]をクリックしてバックアップに使う場所とファイル名を選択してから、[データベースの復元]をクリックします。データベースの復元が完了するとメッセージが表示されます。

## データを転送

CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator 3.0 をインストールする際にも、古いバージョンの CADD™Solis Medication Safety Software データベースと(プロトコルライブラリと使用ログから構成される)そのデータは削除されません。CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator 3.0 をインストールした後は、システム管理者権限を持つユーザーは[データ転送]機能を使ってどの CADD™-Solis Medication Safety Software 2.0 データベースからでも、新規にインストールした CADD™-Solis Medication Safety Software 3.0 データベースにデータを転送することができます。

---

**重要:** Administrator アプリケーションを使用して新しいデータベースに新しいプロトコルライブラリまたはユーザーを作成する前に、[データ転送]機能を使って、CADD™-Solis Medication Safety Software 2.0 データベースからデータを転送することをお勧めします。これは、データ転送機能を使用してデータを転送すると、転送先データベースの既存データが削除されるためです。

---

### 2.0 データを新しい 3.0 データベースに転送するには:

1. メニューバーから**設定 > システムツール**を選択します。
2. [システムツール]ダイアログボックスで、[**データ転送**]タブをクリックします。
3. [転送元] (CADD™-Solis Medication Safety Software 2.0) と[転送先] (CADD™-Solis Medication Safety Software 3.0)データベースの設定を指定します。[転送先インスタンス]、[ポート]、[SQL Server ログイン]、[SQL Server パスワード]には既定値が設定されています。[コンピュータ名]を入力し、[転送元]データベースの他の値を適宜、変更します。[転送先](新しくインストールした CADD™-Solis Medication Safety Software 3.0 データベース)には[コンピュータ名]とその他の接続設定を入力します。[転送先](3.0)データベースに対する既定の接続値は以下のように設定されています。

インスタンス: SMITHSMEDICAL2  
ポート: 55000  
SQL サーバログイン: sa  
SQL サーバパスワード: [パスワードに関しては Smiths Medical に連絡]  
データベース名: SmithsSolisC

4. **データソース確認**をクリックします。指定された[転送元]と[転送先]が評価され、互換性が検証されます。データベースが検出されない場合は、接続設定を確認してもう一度試してください。
5. **データを転送**をクリックして、[転送元]データベース内のデータを[転送先]データベースに転送します。
6. この操作により、転送先データベース内にあるデータが永久に消去されるというメッセージが表示されます。**OK**をクリックして、操作を確認します。
7. データ転送が開始します。転送元データベース内のデータ量によっては、データ転送に数分以上かかる場合があります。データ転送が完了したことを確認するメッセージが表示されます。**OK**をクリックして、このメッセージを閉じます。

## プロトコルとプロトコルライブラリ

### プロトコルとは

プロトコルは、薬剤の送液などのポンプの設定をまとめたものです。プロトコルには、CADD®-Solis携帯型輸液ポンプやCADD®-Solis VIP携帯型輸液ポンプの管理者設定、CADD-Prizm® PCS II(Rev.H)携帯型輸液ポンプのBiomedツールバー設定、治療、種別、薬剤の組み合わせ、その他の送液」パラメータが含まれています。CADD™-Solis Medication Safety Softwareのプロトコルは[プロトコルライブラリ](#)に含まれています。

CADD™-Solis Medication Safety Software - Administrator でプロトコルを作成する際は、一部のパラメータ(患者別設定パラメータなど)は、ユーザーがプロトコルをポンプに送信する際に表示・編集ができるように設定できます。ポンプに送信するプロトコルを選択する際には、プロトコルで定義したポンプのパラメータを受信し、すべての編集可能な患者別設定パラメータに処方通りの変更を加えられます。プロトコルで決められている通りに患者別設定パラメータを設定し、検証を行った後、プロトコルをポンプに送信できます。

**注:** CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator は、単一のプロトコルをCADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプに送信する際にのみ使用できます。単一のプロトコルをCADD®-Solis 携帯型輸液ポンプまたは CADD-Prizm® PCS II(Rev.H)携帯型輸液ポンプに送信するには、CADD™-Solis Medication Safety Software–Point of Care プログラムを使用する必要があります。

### プロトコルライブラリとは

プロトコルライブラリは[プロトコル](#)のまとまりをいいます。プロトコルライブラリ(とそれに含まれるプロトコル)はCADD™-Solis Medication Safety Software – Administratorで作成されます。CADD™-Solis Medication Safety Softwareのユーザーには、選択したプロトコルライブラリにアクセスしたり、プロトコルライブラリや単一のプロトコルをポンプに送信する権限を与えることができます。

**注:** CADD™-Solis Medication Safety Software - Administrator は、プロトコルライブラリをCADD®-Solis 携帯型輸液ポンプや CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプに送信する際に使用できます。

CADD™-Solis Medication Safety Software – Administratorでは[CADD™-Solis Medication Safety Software データベース](#)にプロトコルライブラリを保存しています。

### データベースとは

データベースにはCADD®-Solis Medication Safety Softwareの[プロトコルライブラリ](#)が保存されています。CADD™-Solis Medication Safety Softwareを使用してプロトコルライブラリやプロトコルの送信やアクセスするには、[データベース接続](#)が必要です。

**注:** データベースは、Microsoft® SQL Server® Express(オプションのコンポーネントで、CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator と並行インストールが可能)を実行していてネットワークに接続された PC またはサーバ上に存在したり、Microsoft® SQL Server® 2005 または 2008 を実行しているサーバ上に存在する場合があります。データベースの場所と接続に関する設定は通常、CADD™-Solis Medication Safety Software インストール時に設定されますが、データベース接続に関する設定はいつでも変更できます。詳細は各施設のデータベース管理者に問い合わせてください。

ネットワーク経由でデータベースにアクセスできないCADD™-Solis Medication Safety Software – AdministratorまたはPoint of Careのその他のインストール方法をサポートするには、Administratorプログラムを使用して、データベースからファイルに[プロトコルライブラリをエクスポート](#)することができます。このようにエクスポートされたファイルは(CDなどの取り外し可能なメディアなどで)他のAdministratorコンピュータまたはPoint of Careコンピュータに転送してから、インポートすることができます。

## プロトコルライブラリ

### 新しいプロトコルライブラリを作成

プロトコル管理者権限を持つユーザーは、[プロトコルライブラリ](#)を作成できます。プロトコルライブラリを作成したら、そのライブラリ用に治療、種別、薬剤、プロトコルを作成できます。

プロトコルライブラリに **CADD®-Solis(Rev.A、英語)携帯型輸液ポンプとの互換性を持たせる**にはプロトコルライブラリ名に、拡張文字やアクセント記号付き文字(Á, É, ö など)を使用しないでください。このポンプのプロトコルライブラリ名に拡張文字が使用されると、プロトコルがポンプにダウンロードされません。

**注:** 新プロトコルライブラリは既存プロトコルライブラリを基に作成することもできます。

新プロトコルライブラリを作成するには次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **ファイル > 新ライブラリ** を選択します。
2. [新ライブラリ]ダイアログボックスに、新ライブラリ名を入力します。
3. ドロップダウンリストから、新プロトコルライブラリを適用するポンプアプリケーションを選択します。次から1つ選択します(一覧に表示されたポンプは [ポンプアプリケーション選択](#) によって異なります)。
  - CADD-Prizm® PCS II ポンプ
  - CADD®-Solis ポンプ
  - CADD-Prizm® PCS II ポンプおよび CADD®-Solis ポンプ
  - CADD®-Solis VIP ポンプ
4. **OK** をクリックします。
5. 新プロトコルライブラリが、**プロトコルライブラリを選択**ドロップダウンリストに追加されます。新ライブラリに変更を加えるにはそのライブラリが選択されていることを確認します。
6. **ライブラリ一般設定**タブからは次の手順が行えます。
  - a. **ライブラリ説明**を入力します。
  - b. [**ライブラリバージョン**]ボタンを使用して、ライブラリバージョンを次のバージョン番号に更新します。( [治療、種別、および薬剤を設定](#)、プロトコルライブラリ用の [特定プロトコル](#)、およびプロトコルライブラリを使用のために検証した後で [ライブラリバージョンの設定](#) をすることができます。)
  - c. [Point of Care]設定下で、Point of Care ユーザーに対してユーザーログインが必要を有効にし、**自動ログアウト時間**を設定します。

**注:** ユーザーアカウントを変更し、このプロトコルライブラリへのユーザーアクセスを設定するには、**設定 > ユーザーアカウント > ユーザーアカウント管理**を選択します。

## ライブラリサマリレポートを表示

**[ライブラリ一般設定]**タブで、選択したプロトコルライブラリに対し、プロトコルライブラリとそのアクティブプロトコルのすべてに関する情報を含んでいるサマリレポートを見ることができます。

ライブラリサマリレポートは**[全アクティブプロトコルレポート]**と呼ばれ、選択したプロトコルライブラリのつぎのような情報を含んでいます。

- 名前
- バージョン
- 最終変更日時
- プロトコル数
- 説明
- アクティブプロトコルで使用された治療、種別、および薬剤リスト

全アクティブプロトコルレポートを見るには：

1. **[ライブラリ一般設定]**タブで、**[ライブラリサマリレポート]**から**[レポートを表示]**ボタンをクリックします。
2. 全アクティブプロトコルレポートが表示されます。レポートが複数ページの場合には、レポートビューアツールバーのナビゲーションコントロールを使用して、レポートの他のページを見ることができます。さらに、ツールバーのボタンを使用してレポートを印刷したりエクスポートすることができます。ツールバーボタンの上にマウスポインターを重ねると、機能を記述するツールチップが表示されます。

## Point of Care設定

**[ライブラリ一般設定]**タブで、選択したプロトコルライブラリに対して、CADD®-Solis 携帯型輸液ポンププロトコルのために **CADD™-Solis Medication Safety Software – Point of Care** ユーザーに適用される設定を選択することができます。

Point of Care 設定に含まれるもの：

- **Point of Care オプションを有効にする:** このオプションにチェックを入れると、Point of Care ユーザーが薬剤検証、第2承認者、コメントの要求、および体重に基づく設定を含めてすべての編集可能プロトコルパラメータおよび一般設定を使用できるようになります。このオプションが使用可能になると、以下に記述の**[ユーザーログインが必要]**設定も利用が可能になります。
- **ユーザーログインが必要:** このオプションを選択すると、Point of Care ユーザーにログインするように要求します。このオプションを選択すると、ユーザーが非アクティブである特定の時間（分単位）後に Point of Care ユーザーを自動的にログアウトする**[自動ログアウト]**時間を設定できます。

## プロトコルライブラリを削除

プロトコライブラリを削除すると、そのプロトコライブラリに含まれる治療、種別、薬剤、プロトコルがすべて削除されます。ただし、削除されたプロトコライブラリに関する[ログレポート](#)を表示できるようにするため、ログの入力項目はCADD™-Solis Medication Safety Softwareデータベースに保存されます。

プロトコライブラリを削除するには次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **ファイル > ライブラリを削除** を選択します。
2. [ライブラリを削除]ダイアログボックスで、削除するプロトコライブラリを選択します。
3. **OK** をクリックします。

### プロトコライブラリをエクスポート

接続しているデータベース内のプロトコライブラリはすべて、別にインストールされたCADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator または Point of Care によってインポートできる暗号化データファイル（CD などの取り外し可能なメディアに保存するなど）にエクスポートすることができます。これは、別にインストールされた Administrator または Point of Care がネットワーク上にない場合やデータベースへのアクセスがない場合に使える方法です。また別の Administrator ユーザーにプロトコライブラリの編集可能なコピーを提供する際にも使えます。

プロトコライブラリをエクスポートする際には、ユーザーアカウント情報、使用ログ、ポンプログも含めるかどうかを選択できます。また、プロトコライブラリ内のプロトコルをすべて、エクスポートされたファイル内で非アクティブに設定できます(これにはインポート後にプロトコルを編集/レビュー可能にし、ポンプに送信するためにはアクティブに設定する必要があります)。

プロトコライブラリをエクスポートするには次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **ファイル > ライブラリをエクスポート** を選択します。
2. [ライブラリをエクスポート]ダイアログボックスで、エクスポートするプロトコライブラリをクリックして選択します。
3. エクスポートオプションを希望通りに設定します。
  - **ユーザーを含む:** データベースからのユーザーアカウント情報をすべて含めます。
  - **使用ログを含む:** プロトコライブラリに関連するログの入力項目を含めます。
  - **ポンプログを含む:** プロトコライブラリに関連するポンプのログ情報を含めます。
  - **プロトコルを非アクティブとしてエクスポート:** デフォルトで、各プロトコルはエクスポート時にその[アクティブ]または[非アクティブ]状態を保持します。[非アクティブとしてプロトコルをエクスポート]を選択してすべてのプロトコルをエクスポートされたプロトコライブラリに非アクティブとして設定します。プロトコルは非アクティブに設定されると、Administratorアプリケーションで編集/レビュー可能にして、[アクティブ](#)に設定するまではポンプに送信できません。
4. **OK** をクリックします。

5. [ライブラリのエクスポート先]ダイアログボックスで、ファイルの保存場所を選択し、ファイル名を入力してから**保存**をクリックします。

エクスポートしたプロトコルライブラリは、選択した場所のデータベースファイル(\*.smdファイル)に保存されます。

## プロトコルライブラリをインポート

プロトコル管理者権限を持つユーザーはプロトコルライブラリを、別の CADD™-Medication Safety Software 3.0 データベースまたは過去にエクスポートしたデータベースファイルからインポートできます。プロトコルライブラリをインポートするには、インポート元のデータベースまたはデータベースファイルが CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator の同じバージョンのものである必要があります。

プロトコルライブラリをインポートする際に追加のオプションを使用するとユーザー、使用ログやボンブログをインポートしたり、インポートしたプロトコルを非アクティブに設定することができます。

データベースまたはファイルからプロトコルライブラリをインポートするには次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **ファイル > ライブラリをインポート** を選択します。[ライブラリをインポート]ダイアログボックスが表示されます。
2. 別のデータサーバからインポートするには、**インポート元サーバ**を選択し、データベースサーバのサーバ名と詳細接続の設定(既定値が示されている)を入力します。

—または—

過去にエクスポートしたデータベースファイルからインポートする場合は、**インポート元ファイル**を選択し、**参照**をクリックしてから、エクスポートしたデータベースファイル(\*.smdファイル)の場所とファイル名を選択します。

3. システムまたは管理者権限を持つユーザーとしてログインしていない場合は、[認証を検証]エリアでシステムまたは管理者権限を持つユーザーの**ユーザーID**と**ユーザーパスワード**を入力します。
4. **ライブラリリストを取得**をクリックします。選択したデータベースサーバーまたはファイルが読み取られ、プロトコルライブラリのリストが表示されます。プロトコルライブラリの説明、最終変更日時、バージョン番号を表示するには、それぞれをクリックして選択します。
5. インポートするプロトコルライブラリの横にあるボックスをクリックしてチェックマークを入れます。
6. 希望するオプションをクリックしてその横にチェックマークを入れて、[オプションをインポート]を設定します。
  - **ユーザーをインポート**: データベースサーバまたはファイルに含まれているすべてのユーザーを、接続しているデータベースにコピーされます。新規ユーザーが追加され、既存のユーザーは権限(すべてのユーザーパスワードを含む)が更新されますが、ユーザーは削除されません。
  - **使用ログをインポート**: データベースまたはデータファイルに含まれているすべての使用ログを、接続しているデータベースにコピーします。

- **ポンプログをインポート:** すべてのポンプログ情報を接続しているデータベースにコピーします。
- **プロトコルを非アクティブとしてインポート:** データベースサーバまたはファイルからインポートされたすべてのプロトコルをデータベースにコピーすると、既定で非アクティブにされます。プロトコルは非アクティブに設定されると、Administratorアプリケーションで編集/レビュー可能にして、アクティブに設定するまではポンプに送信できません。

**注:** インポートオプションはソースデータベースサーバまたはファイルにアプリケーションデータが含まれていないと使用できません。たとえば、プロトコルライブラリが含まれていない使用ログでエクスポートされた場合、使用ログはインポートできません。

7. **OK** をクリックして選択したプロトコルライブラリをインポートします。

## プロトコルライブラリを更新および復元

プロトコル管理者権限を持つユーザーは、[更新ライブラリバージョン]機能を使用してプロトコルライブラリのバージョンを次の主要番号（たとえば 3.0、4.0 など）に増加し、そこでプロトコルライブラリのこのバージョンを復元する必要がある場合に後で使用できる復元ポイントを作成することができます。

**注:** プロトコルライブラリを変更する（たとえば新プロトコルの作成、プロトコルの編集など）と、プロトコルライブラリの小さなバージョン番号を（例えば 2.2 から 2.3 へ）増加させます。小さなバージョン数の増加は復元ポイントを作成しません。復元ポイントは、後述のようにプロトコルライブラリバージョンを更新することによってのみ作成することができます。

### プロトコルライブラリバージョンの更新

ライブラリバージョンを更新すると、ライブラリの復元可能なバージョンが保存されるだけで、プロトコルライブラリまたはプロトコルをポンプに送信したり、プロトコルライブラリへのさらなる変更を妨げることはありません。

ライブラリバージョンを更新するには:

1. 更新するプロトコルライブラリを選択します。
2. [ライブラリ一般設定]タブで[ライブラリバージョン]をクリックします。

[バージョン管理]ダイアログボックスで、[ライブラリバージョンを更新]タブに現在のプロトコルライブラリバージョンが、ライブラリが更新されたときのバージョン数と共に表示されます。たとえば、2.1 というバージョン番号はバージョン 3.0 に変わります。

3. **更新** をクリックします。

**注:** ライブラリ送信機能を使用してプロトコルライブラリをポンプに送信したら、ライブラリ名とバージョン番号をCADD®-Solis携帯型輸液ポンプやCADD®-Solis VIP携帯型輸液ポンプの[プロトコルライブラリサマリ]画面で表示できます。

### プロトコルライブラリバージョンの復元

プロトコル管理者権限を持つユーザーは、ライブラリバージョンの復元機能を使用して先に更新したプロトコルライブラリバージョン（3.0 や 4.0 のような主要バージョン数）に戻すこと



ができます。プロトコルライブラリバージョンの復元は、使用中の現在のプロトコルライブラリを復元するように選択したバージョンに置換します。

過去のライブラリバージョンを復元するには：

1. **[ライブラリ一般設定]**タブで**[ライブラリバージョン]**をクリックします。
2. **[バージョン管理]**ダイアログボックスで **[ライブラリバージョンを復元]**タブをクリックします。
3. 以前更新して利用可能なライブラリバージョンのリストから、復元したいバージョンを選択してクリックします。
4. オプションとして、復元したプロトコルライブラリのプロトコルを復元したときにアクティブにセットしたくない場合は、**[プロトコルを非アクティブとして復元]**横のチェックボックスをクリックしてください。このオプションが選択されると、復元されたプロトコルライブラリの各プロトコルは、ポンプに送信する前にレビューし、必要に応じて編集し、アクティブとして設定する必要があります。**[プロトコルを非アクティブとして復元]**が選択されない場合は、各プロトコルはそのバージョンに対して更新が実行された時点でのアクティブまたは非アクティブ状態を保持します。
5. **[復元]**をクリックします。

## 治療、種別、薬剤

### 治療、種別、薬剤を設定

**治療、種別、薬剤を設定**タブでは、プロトコルライブラリや特定のポンプアプリケーション用のプロトコルを作るために治療、種別、薬剤の作成や編集を行います。リスト表示された治療、種別、薬剤にはそれぞれ"使用中"列があり、現在プロトコルで指定されているかどうか分かります。

**注：** 選択したポンプ用に指定できる治療や送液モードに関する情報については、ポンプに付属の取扱説明書を参照してください。

プロトコルライブラリに **CADD®-Solis(Rev.A、英語)携帯型輸液ポンプとの互換性を持たせる**にはプロトコルライブラリ名に、拡張文字やアクセント(Á, É, ö など)が含まれている治療名、種別名、薬剤名、プロトコル名を使用しないでください。また、日時や数字の形式はデフォルトのプロトコルテンプレートで選択したもの以外、使用しないでください。このポンプのプロトコルに拡張文字や互換性のない日時や数字の形式が使用されると、プロトコルがポンプにダウンロードされません。

**注：** CADD®-Solis ポンプおよび CADD™-Solis Medication Safety Software の日本語バージョンでは、カタカナとラテン-1文字セットだけが治療、種別、薬剤名、臨床補助ノート、およびサポートメッセージに対応しています。ラテン-1文字セットは英語文字および Á、É、ö のようなアクセント付き西欧文字を含みます。カタカナとラテン-1文字セットを使って作成されたプロトコルだけがポンプに送信できます。漢字が使われると、ソフトウェアはプロトコルをポンプに送信できません。

この項では次の内容について説明します。

[新規治療を追加](#)  
[新規種別を治療に追加](#)  
[新規薬剤を追加](#)

## 新規治療を追加

**注:** CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプのプロトコライブラリには、ポンプで使用できる送液モードに相応する事前定義の治療が含まれています。このポンプに関しては他の治療は作成できませんので、まず始めに新規種別や新規薬剤を追加することができます(以下の項を参照)。

新規治療を追加するには次に従ってください(CADD®-Solis 携帯型輸液ポンプと CADD-Prizm® PCS II 携帯型輸液ポンプのみ)。

1. 新規治療を追加するプロトコライブラリを選択します。
2. **治療、種別、薬剤を設定** タブの [治療] ボックスで、**新規** をクリックします。
3. [新規治療] ダイアログボックスに、新しい治療名(IV PCA など)を入力します。治療名に使用できる文字数はポンプの表示により制限されます。
4. 必要に応じ、**Point of Care** または **Administrator** のユーザーが表示できる治療注記を追加します。
5. **OK** をクリックします。治療を作成したら、治療の種別の作成に進めます。

**注:** 治療を選択して **[編集]** をクリックすると後でも編集できます。プロトコルで"使用中"になっている治療名は編集できません。治療注記はいつでも編集できます。

## 新規種別を治療に追加

種別は選択した治療に特定したものです。新規種別を治療に追加するには次の手順に従ってください。

1. 希望のプロトコライブラリと治療が **治療、種別、薬剤を設定** タブで選択されていることを確認します。
2. [治療の種別] ボックスで **新規** をクリックします。
3. [治療の新規種別] ダイアログボックスに、種別名(成人など)を入力します。種別名に使用できる文字数はポンプの表示により制限されます。
4. 必要に応じて、**Point of Care** または **Administrator** のユーザーが表示できる種別注記を追加します。
5. **OK** をクリックします。

**注:** 治療と種別を選択して **[編集]** をクリックすると後でも種別を編集できます。プロトコルで"使用中"になっている種別名は編集できません。種別注記はいつでも編集できます。

## 新規薬剤を追加

各薬剤は名前/濃度/単位/薬剤IDの組み合わせを使って指定されます。リストに表示されているものに対して別の濃度を指定する場合のみ、薬剤名を1回以上使用できます。追加された各薬剤には、薬剤の投与時、検証に使用できる [薬剤IDを割り当てる](#) ことができます。

**注:** 薬剤はプロトコルライブラリに特定したもので、そのライブラリにわたって広く使用できます。種別とは異なって、各治療に対して新規薬剤を作成する必要はありません。薬剤は複数の治療で使用できます。

新規薬剤を追加するには次の手順に従ってください。

1. 正しいプロトコルライブラリが**治療、種別、薬剤を設定**タブで選択されていることを確認します。
2. [薬剤]ボックスで**新規**をクリックします。
3. [新規薬剤]ダイアログボックスで薬剤名、単位、濃度、一意の薬剤 ID(20 文字を超えない)を入力します。薬剤名に使用できる文字数はポンプの表示により制限されます。

**注:** ミリグラムやマイクログラムなどの単位は PCA 治療にのみ当てはまります。このため、ミリグラムやマイクログラムという単位で薬剤を指定している治療はこれらの治療のプロトコルリストにのみ表示されます。

**注:** ([プロトコルの詳細](#)画面の)プロトコルで、薬剤の検証が必要であると指定されている場合、AdministratorまたはPoint of Careアプリケーションのユーザーは、薬剤を患者に投与する前に薬剤IDの検証が必要になります。ユーザーはこれを行うには、薬剤を入力するか、バーコードスキャナーを使用して入力して薬剤バーコードラベルを読み取ってください(詳細は[薬剤バーコードラベルを印刷](#)を参照)。

---

**警告:** バーコードスキャナーやキーボードを使用して薬剤に薬剤 ID を割り当てる際は、正しいバーコード情報が入力されているか手動で確認ししてください。これを怠った場合ポンプに不適切な薬剤投与が行われることがあり、投与している薬液の種類によっては患者が死亡または重傷を負う恐れがあります。

---

4. **OK** をクリックします。
5. [新規薬剤を検証]ダイアログボックスで、入力した薬剤情報が正しいことを確認します。情報を確認したら各アイテムの横にあるボックスにチェックマークを入れてから **OK** をクリックします。

**注:** 薬剤を追加した後は、薬剤 ID のみが編集できます。これを行うには薬剤を選択してから**編集**をクリックします。

## 薬剤IDを割当

英数字の薬剤IDは新薬を追加するときに、または[治療、種別、薬剤を設定](#)タブで既存の薬剤を編集することにより割り当てることができます。薬剤IDは特定の薬剤と濃度の組合せを一意的に識別するのに使用されます。

プロトコルのための[薬剤検証が必要]設定が[プロトコルの詳細](#)画面でプロトコルのためにオンされると、AdministratorまたはPoint of Careアプリケーションユーザーが薬剤IDを検証するために必要となります。これを行うために、薬剤IDはキーボードを介して手動で入力することができるか、または[薬剤バーコードラベル](#)がバーコードスキャナーを使用してスキャンすることができます。

---

**警告:** バーコードをスキャンして薬剤 ID を割り当てる際は常に、スキャン後に正しいバーコード情報がプログラムに入力されたことを確認してください。これを怠った場合ポンプに不適

切なプログラミングが行われることがあり、投与している薬液の種類によっては患者が死亡または重傷を負う恐れがあります。

**注：** 薬剤 ID バーコードをスキャンするには、**Human Interface Device (HID)**として構成され、**Code 128** バーコードに対応するバーコードスキャナーが PC に接続されていなければなりません。スキャナーのセットアップは、バーコードスキャナーメーカーの取扱説明書を参照してください。

**CADD™-Solis Medication Safety Software** でのバーコードスキャンニングに対するその他の留意事項

- 一度に 1 つのバーコードを入力できます。バッチ入力は許可されません。
- 1D バーコードは印刷されますが、2D スキャナーはバーコードの読み取りに使用できません。
- スキャン中にエラーが発生した場合は、キーボードの **Caps Lock** 位置を確認してください。

## 薬剤バーコードラベルを印刷

**CADD™-Solis Medication Safety Software** データベースのプロトコライブラリで定義された薬剤に対して、少なくとも高さ 1 インチ (25.4 mm) 幅 3 インチ (76.2 mm) のバーコードラベルを印刷できます。薬剤バーコードラベルには、薬剤 ID、薬剤 ID に関するテキスト、薬剤名、薬剤の濃度と単位を示す次元バーコード(コード 128 形式による)が含まれています。

**警告：** 各施設では印刷したバーコードラベルを貼って薬剤を識別する際に、明確に表示したプロセスに必ず従ってください。これを怠った場合ポンプに不適切な薬剤投与が行われることがあり、投与している薬液の種類によっては患者が死亡または重傷を負う恐れがあります。

**注：** プリンタのインストールと設定に関してはプリンタ製造元の指示を参照してください。

薬剤バーコードラベルを印刷するには次の手順に従ってください。

1. ログインし、適切なプロトコライブラリを選択した状態で、**治療、種別、薬剤を設定**タブをクリックしてから**バーコード印刷**をクリックします。その他の方法  
—または—  
メニューバーから**バーコード印刷 > バーコード印刷**を選択し、適切なプロトコライブラリに関連付けられている薬剤名をクリックしてから**印刷**をクリックします。
2. **[バーコード印刷]**ダイアログボックスに、バーコードラベルのプレビューが表示されます。適切な薬剤 ID、薬剤名、薬剤濃度が表示されているかを確認します。
3. **印刷**をクリックします。
4. **[印刷]**ダイアログボックスには、インストールしたプリンタがリストされています。希望のプリンタおよび印刷オプションをクリックして選択し、**[印刷]**をクリックします。

**警告：** バーコードラベルを印刷する際は、ラベルが薬剤と一致していることを直接確認してください。これを怠った場合ポンプに不適切な薬剤投与が行われることがあり、投与している薬液の種類によっては患者が死亡または重傷を負う恐れがあります。

## プロトコル

### プロトコルを追加/編集

[新プロトコルライブラリを作成](#)し、[治療、種別、薬剤](#)を追加したら、プロトコルライブラリに含まれる[プロトコル](#)を追加したり編集することができます。プロトコルの追加または編集を行う際には、そのプロトコルの治療、種別、薬剤を選択してから送液パラメータ、アラーム設定、その他のポンプ設定を指定します。さらに、プロトコルを設定する際にはプロトコルの一部のパラメータを、プロトコルをポンプに送信する際にAdministratorまたはPoint of Careで読み取り専用や編集可能に設定できます。

**注：** 選択したポンプ用に指定できる治療、送液モード、設定に関する情報については、ポンプに付属している取扱説明書を参照してください。

プロトコルライブラリに **CADD®-Solis(Rev.A、英語)携帯型輸液ポンプとの互換性を持たせる**にはプロトコルライブラリ名に、拡張文字やアクセント(Á, É, ö など)が含まれている治療名、種別名、薬剤名、プロトコル名を使用しないでください。また、日時や数字の形式は既定のプロトコルテンプレートで選択したもの以外、使用しないでください。このポンプのプロトコルに拡張文字や互換性のない日時の形式が使用されると、プロトコルがポンプにダウンロードされません。

**注：** CADD®-Solis ポンプおよび CADD™-Solis Medication Safety Software の日本語バージョンでは、カタカナとラテン-1文字セットだけが治療、種別、薬剤名、臨床補助ノート、およびサポートメッセージに対応しています。ラテン-1文字セットは英語文字および Á、É、ö のようなアクセント付き西欧文字を含みます。カタカナとラテン-1文字セットを使って作成されたプロトコルだけがポンプに送信できます。漢字が使われると、ソフトウェアはプロトコルをポンプに送信できません。

プロトコルの詳細を編集するには次の手順に従ってください。

1. すべてのプロトコルパラメータは、**プロトコル設定**タブで**新規プロトコル**または**プロトコルを編集**をクリックして表示・編集します。
2. 新プロトコルを作成する場合は、[新規プロトコル]ウィンドウで次の手順に従ってください。
  - a. **治療、種別、薬剤**を選択します。
  - b. 関連付けられた[プロトコルテンプレート](#)を新規プロトコルのベースとして使用するかを選択します。テンプレートを使用するには、**テンプレートを使用**チェックボックスをオンにします。
3. 必要に応じて**プロトコル注記**を追加/編集します。これらの注記は、プロトコルを **Point of Care** または **Administrator** アプリケーションから選択する場合にユーザーに通知するものです。
4. **次へ**をクリックします。
5. [プロトコルの詳細]ウィンドウで、必要に応じて各タブのプロトコル設定とポンプ設定を変更します。
  - **送液 1** タブ、**送液 2** タブ、およびに **送液 3** タブ（一部のプロトコルに使用される）は、ハード最大値やソフト最大値、ハード最小値やソフト最小値などの設定

を含めた、送液モードに特定した、プロトコルに関するプログラム可能な送液パラメータが含まれています。さらに情報を提供するため、一部のパラメータ見出しは、マウスのカーソルを上にとツールチップテキストが表示される機能があります。それ以上の情報は、ポンプに付属の製品説明をご覧ください。

**注：**患者別設定プロトコルや一般設定下にあるチェックボックスは、プロトコルの Point of Care プログラムでの機能の仕方や Administrator からプロトコルを送信する際にのみ当てはまるもので、オンボードプロトコルライブラリ内のポンプに保存されているプロトコルには当てはまりません。チェックボックスは [ライブラリ一般設定] タブで [\[Point of Care 設定を有効にする\]](#) オプションが選択されている場合のみ利用可能です。「検証が必要な項目」という設定では、薬剤IDの検証や第2承認者による承認を必要とするかを選択できます。これが体重に基づいたプロトコルである場合は、[体重に基づいたプロトコル](#)を参照してください。

- **アラーム**タブにはポンプのアラーム、気泡検知、センサ、リザーバ低位/空アラーム設定、ポンプの予防保守設定が含まれています。
- **セキュリティ**タブにはポンプのセキュリティコード、セキュリティレベルの設定が含まれています。

**注：**CADD-Prizm® PCS II 携帯型輸液ポンプでは、初期ロックレベルを設定すると、プロトコルがポンプに送信された後に希望するポンプのロックレベルを選択できます。LLO でポンプが開始すると、ロックレベルが自動ロック設定に変わります。自動ロック設定もこのタブで設定されます。

- **表示/音**タブには、アラームの音量や音の設定、日時や数字の形式、ポンプソフトウェア(これらの機能をサポートする CADD®-Solis ポンプのみ)に表示されている画面色、サポートノートおよび/または臨床補助メッセージなど、バックライトの明るさに関連するポンプ設定が含まれています。

**注：**CADD®-Solis (Rev.A) 携帯型輸液ポンプ以外のポンプ用に日時の形式を設定する際には(上述の互換性に関する注記を参照)、日時の形式を PC と同じ形式に設定して、ポンプや PC のデータを比較する際の混乱を避けることをお勧めします。

- CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプに限り、**レポート**タブにはポンプのカスタムレポートや新患者マーカーに関連する設定が含まれています。

**注：**CADD®-Solis 携帯型輸液ポンプ、CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプ、CADD-Prizm® PCS II(Rev.H)携帯型輸液ポンプのプログラミングに関する詳しい方法や情報などは、ポンプに付属の取扱説明書をご覧ください。

6. CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプでは：プロトコル設定を基に送液プロファイル(一定期間に投与する薬剤の量)をグラフ表示するには、**[保存]** ボタンの左側にあるグラフボタンをクリックします。
7. プロトコルをポンプに送信できるようにアクティブにする場合は、**アクティブ-プロトコルをポンプに送信可能** ボックスをクリックしてチェックボックスをオンにします。

---

**警告：** 新プロトコルや編集したプロトコルをアクティブにしたり、ポンプに送信できる状態にする前には、別のユーザーがこのようなプロトコルをそれぞれ検証することを強くお勧めします。これを怠った場合ポンプに不適切なプログラミングが行われることがあり、投与している薬液の種類によっては患者が死亡または重傷を負う恐れがあります。

---

8. プロトコルの詳細を編集したら**保存**をクリックします。

**注:** 複数の Administrator ユーザーが同時にデータベースにログインすることができます。2人のユーザーが同時に同じプロトコルを編集しようとする、編集を試行した2人目のユーザーに対してメッセージが表示されます。メッセージはユーザーにプロトコルが編集集中であることを通知するもので、「上書きしますか?」と聞かれます。このメッセージに対して**はい**をクリックすると、1人目のユーザーが行った変更は一切保存されません。1人目のユーザーは変更を保存しようとする、これを知らせる通知を受け取ります。この通知を受け取った後、1人目のユーザーが行った変更がすべて失われます。"上書きしますか?"というメッセージに**いいえ**をクリックすると、2人目のユーザーは**プロトコル設定**タブに戻され、1人目のユーザーは編集を完了することができます。

9. **プロトコル設定**タブで、新規プロトコルまたは編集したプロトコルがリストに表示されており、それらのプロトコルがアクティブに設定されているかどうか分かります。プロトコルのサマリを表示または印刷するには、プロトコルをクリックして選択してから**プロトコル印刷**をクリックします。

## 体重に基づいたプロトコル

**プロトコル**は体重に基づいて作成できます。患者別設定プロトコルの値を単位/キログラム/時間または単位/キログラムの入力に基づいて計算します。体重に基づいたプロトコルはプログラムされ、**Point of Care**アプリケーションからのみポンプに送信することができます。体重基準機能をサポートしている治療に対してその機能をオンにするには、**プロトコルの詳細**画面の**送液 1**タブにある**体重基準オプション**を選択します。

---

**警告:** 体重に基づいた送液パラメータを使用する際は、必ず体重をすべてキログラムで入力してください。これを怠った場合ポンプに不適切なプログラミングが行われることがあり、投与している薬液の種類によっては患者が死亡または重傷を負う恐れがあります。

**警告:** 体重に基づいたプロトコルを使用する際の持続投与速度は単位/キログラム/時間の入力を使用してプログラムされており、追加投与量または**PCA**投与量、送液制限量は単位/キログラムの入力を使用してプログラムされています。ポンプの**LCD**スクリーンには、持続投与速度が1時間あたりの単位(ミリグラム、マイクログラム、ミリリットル)、追加投与量または**PCA**投与量、送液制限量が単位(ミリグラム、マイクログラム、ミリリットル)で表示されています。このためポンプでは投与を単位/時間または単位で調整してください。

---

## プロトコルをアクティブにする

**注:** プロトコルをアクティブにする前には必ず、プロトコルで指定されている設定をすべて各施設が決めたプロセスに従って確認してください。

プロトコルが使用できる状態でない場合は、プロトコルの編集時の**プロトコルの詳細**で**アクティブ-プロトコルをポンプに送信可能**ボックスにチェックマークを入れないでください。これによりプロトコルは非アクティブのままになります。非アクティブなプロトコルは後に編集したり確認したりするために保存されますが、ポンプには送信できません。プロトコルは[プロトコルの詳細]画面の**アクティブ-プロトコルをポンプに送信可能**ボックスにチェックマークが入るまで、**Point of Care**ユーザーに対して表示されず、ポンプに送信できません。

Administrator からログアウトする際には、非アクティブなプロトコルが含まれているプロトコルライブラリがある場合はそれが通知されます。選択したプロトコルライブラリのプロトコルのステータスは**プロトコル設定**タブで「アクティブ」になっていることを確認できます。

## プロトコルを分類

CADD-Prizm® PCS II および CADD®-Solis ポンププロトコルライブラリでは、ライブラリがポンプに送信された後、Administrator、Point of Care およびポンプの表示（(CADD®-Solis ポンプ、Rev. C のみ）に表示されたときにプロトコルのリストをどう仕分けるかを特定することができます。デフォルト設定で、プロトコルのリストは治療、それから種別、薬剤別にそれぞれ文字、数字、次にアルファベット順で表示されます。しかし分類順はカスタマイズすることができます。

プロトコルの分類を設定するには：

1. プロトコルライブラリを**プロトコルライブラリを選択**ドロップダウンリストから選択します。
2. **プロトコル設定**タブを選択します。
3. **[プロトコル分類]**をクリックします。
4. **[プロトコル分類順]**ダイアログボックスで、分類方法として**[アルファベット順]**または**[カスタム順]**を選択します。
5. **[カスタム順]**が選択されると、**[プロトコルのカスタム分類]**コントロールが可能となり、治療、種別、および薬剤の分類順を設定することができます。治療、種別、および薬剤の名前の位置をリスト内で動かすには、名前をクリックして選択してから上下矢印ボタンをクリックします。代替として、リスト内での位置を変更する名前をクリックしてドラッグすることもできます。
6. 分類の変更を行った後、**OK** をクリックします。

## プロトコルテンプレートを管理

プロトコルテンプレートには、選択したプロトコルライブラリで特定の送液モード(PCA、持続など)を新しく作成する際に使用できる初期設定が含まれています。プロトコルの作成時にテンプレートを使用するのはオプションですが、プロトコルテンプレートが使用されている場合は、新しいプロトコルの作成時において共通する開始点になります。

プロトコルテンプレートはプロトコルライブラリに特定したもので、[選択したポンプアプリケーション](#)によって異なります。プロトコルテンプレートには既定の初期設定が含まれていますが、管理者権限を持つユーザーは選択したプロトコルライブラリのプロトコルテンプレートが編集できます。またテンプレートは既定の設定にリセットできます。

**注：** プロトコルテンプレートを変更すると、新しいプロトコルを作成した時の初期設定にのみ影響します。テンプレートを変更しても、過去に作成したプロトコルは一切変更されません。

プロトコルライブラリを変更するには次の手順に従ってください。

1. 希望のプロトコルライブラリを**[プロトコルライブラリを選択]**ドロップダウンリストから選択します。



2. **プロトコル設定**タブで**テンプレートを管理**ボタンをクリックします。
3. [テンプレートを管理]ダイアログボックスで、**編集**するプロトコルライブラリをクリックして選択します。テンプレートのリストは、選択したプロトコルライブラリのポンプアプリケーションによって異なります。
4. **テンプレートを編集**をクリックします。
5. [テンプレートを編集]ウィンドウでタブを使用して、テンプレートの治療とポンプパラメータを変更します。タブはプロトコル作成または編集時に表示されるものと同じ設定に相応します。

- **送液 1** タブ、**送液 2** タブ、および**送液 3** (一部のプロトコルと共に使用される) タブには、プロトコルのプログラム可能な送液パラメータが含まれています。プロトコルテンプレートを編集する際には、送液に直接関連するパラメータは編集できませんが、治療モードや送液モードでサポートされている、薬剤検証、第 2 承認者による承認、送液制限方法、滴定の設定は編集できます。
- **アラーム**タブにはポンプのアラーム、気泡検知、センサ、リザーバ低位/空アラーム設定、ポンプの予防保守設定が含まれています。
- **セキュリティ**タブにはポンプのセキュリティコード、セキュリティレベルの設定が含まれています。

**注:** CADD-Prizm® PCS II 携帯型輸液ポンプでは、初期ロックレベルを設定すると、プロトコルがポンプに送信された後に希望するポンプのロックレベルを選択できます。LLO でポンプが開始すると、ロックレベルが自動ロック設定に変わります。自動ロック設定もこのタブで設定されます。

- **表示/音**タブには、アラームの音量や音の設定、日時や数字の形式、ポンプソフトウェア(これらの機能をサポートする CADD®-Solis ポンプのみ)に表示されている画面色、サポートノートおよび/または臨床補助メッセージなど、バックライトの明るさに関連するポンプ設定が含まれています。
  - CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプに限り、**レポート**タブにはポンプのカスタムレポートや新患者マーカーに関連する設定が含まれています。
6. プロトコルテンプレートを編集したら**保存**をクリックします。テンプレートへの変更を確認するには、確認メッセージで **OK** をクリックします。
  7. [テンプレートを管理]ダイアログボックスを閉じるには**閉じる**をクリックします。
- これで編集したプロトコルテンプレートに変更が反映されます。[プロトコルの詳細]画面で[新プロトコルを作成](#)したり**テンプレートを使用**を選択したりすると、関連付けられているプロトコルテンプレートの値が最初に選択されます。

---

**警告:** 新プロトコルや編集したプロトコルをアクティブにしたり、ポンプに送信できる状態にする前には、別のユーザーがプロトコルをそれぞれ検証することを強くお勧めします。これを怠った場合ポンプに不適切なプログラミングが行われることがあり、投与している薬液の種類によっては患者が死亡または重傷を負う恐れがあります。

---

プロトコルテンプレートをデフォルトの設定にリセットするには次の手順に従ってください。

1. 希望のプロトコルライブラリを[プロトコルライブラリを選択]ドロップダウンリストから選択します。

2. **プロトコル設定**タブで**テンプレートを管理**ボタンをクリックします。
3. **[テンプレートを管理]**ダイアログボックスで、リセットするプロトコルライブラリをクリックして選択します。
4. **デフォルトにリセット**をクリックします。テンプレートのリセットを続行するには、確認メッセージでは**はい**をクリックします。
5. **[テンプレートを管理]**ダイアログボックスを閉じるには**閉じる**をクリックします。

これでプロトコルテンプレートのリセットが完了です。**[プロトコルの詳細]**画面で**[新プロトコルを作成](#)**したり**テンプレートを使用**を選択すると、関連付けられているプロトコルテンプレートのデフォルト値が最初に選択されます。

---

**警告:** 新プロトコルや編集したプロトコルをアクティブにしたり、ポンプに送信できる状態にする前には、別のユーザーがこのようなプロトコルをそれぞれ検証することを強くお勧めします。これを怠った場合ポンプに不適切なプログラミングが行われることがあり、投与している薬液の種類によっては患者が死亡または重傷を負う恐れがあります。

---

## プロトコル詳細レポートを表示

すべてのプロトコルのプロトコル詳細レポートは表示、保存、印刷ができます。プロトコル詳細レポートには、プロトコルの最終変更日やプロトコルが所属するプロトコルライブラリ、それに関連した治療、種別、薬剤の他、プロトコルで指定した送液、アラーム、セキュリティ、表示、音に関する設定が含まれています。

プロトコル詳細レポートを表示・印刷するには次の手順に従ってください。

1. プロトコルライブラリを**プロトコルライブラリを選択**ドロップダウンボックスから選択します。
2. **プロトコル設定**タブを選択します。
3. レポートが必要なプロトコルを選択します。
4. **プロトコル印刷**をクリックします。
5. プロトコル詳細レポートが表示されます。プロトコル詳細レポートレポートを印刷するにはプリンターのツールバーボタンをクリックします。レポートを **Microsoft® Excel®** ファイルまたは **PDF** ファイルで保存するには、**エクスポート**(フロッピーディスクのアイコン)のツールバーボタンをクリックします。レポートが**2ページ以上**にわたる場合は、ツールバーの**前の**ページボタンや**後ろの**ページボタンを使用して前後のページを表示できます。

## Rxフォームを印刷

Rxフォームは、プロトコル特定の印刷可能な医師用オーダーフォームで、処方箋の記入者は特定の薬剤やポンプのパラメータに関するオーダーを記録したり発注することができます。

**注:** Rxフォームは編集できません。印刷してから記入するものです。

医師は Rx フォームを使用して、治療や種別に関する注記を確認したり、処方箋の詳細を提示したり、プロトコルで使用できる範囲を表示してからオーダーに日付を記入して発注することができます。

できます。薬剤師または臨床医は記入済みのオーダーフォームを基に、医師が処方したオーダーごとの患者別設定パラメータを使用して、プロトコルをポンプに送信できます。

プロトコルに関する Rx フォームを印刷するには次の手順に従ってください。

1. プロトコルライブラリを**プロトコルライブラリを選択**ドロップダウンリストから選択します。
2. **プロトコル設定**タブを選択します。
3. プロトコルライブラリ内のプロトコルのリストから、Rx フォームを印刷するプロトコルをクリックして選択します。

注: Rx フォームはアクティブなプロトコルのフォームのみ印刷できます(プロトコルをアクティブに設定するための情報は、[プロトコルの詳細を編集](#)を参照)。

4. **Rx フォーム**をクリックします。選択したプロトコルの処方箋フォームが表示されます。
5. フォームを印刷するにはプリンタのツールバーボタンをクリックします。フォームを Microsoft® Excel® ファイルまたは PDF ファイルでエクスポートするには、エクスポート(フロッピーディスクのアイコン)のツールバーボタンをクリックします。
6. フォームを閉じるにはフォームウィンドウの右上の隅にある"**X**"をクリックします。

## ポンプ通信

### CADD-Prizm(R) PCS II ポンプ

#### ポンプIDを取得

注: CADD-Prizm®PCS II 携帯型輸液ポンプ(Rev.H)に限ります。

接続しているポンプに過去に送信した ID が取得できます。ポンプ ID の取得はプロトコルライブラリにログインせずに、Administrator アプリケーションで行うことができます。

ポンプ ID を取得するには次の手順に従ってください。

1. ポンプをコンピュータに接続します([CADD-Prizm® PCS II に接続](#)を参照)。
2. メニューバーから **ポンプ通信 > CADD-Prizm® PCS II ポンプ > ポンプ ID を取得**を選択します。
3. [ポンプ ID を取得]ダイアログボックスで**ポンプから取得**をクリックします。
4. 接続しているポンプから ID が取得され、[ポンプ ID]ボックスに表示されます。

#### ポンプID送信

注: CADD-Prizm®PCS II 携帯型輸液ポンプ(Rev.H)に限ります。

ポンプ ID はポンプのシリアル番号とは別の、施設が定義する識別子です。最長 6 文字の英数字(アルファベットや数字)を含めることができます。

ポンプ ID を送信するには次の手順に従ってください。

1. ポンプをコンピュータに接続します([CADD-Prizm® PCS II に接続](#)を参照)。

2. メニューバーから **ポンプ通信 > CADD-Prizm® PCS II ポンプ > ポンプ ID 送信** を選択します。
3. [ポンプ ID 送信]ダイアログボックスで**新ポンプ ID**を入力してから**[ポンプに送信]**をクリックします。

## CADD(R)-Solis ポンプ

### ライブラリ送信

**注:** CADD®-Solis 携帯型輸液ポンプ、CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプに限ります。

ライブラリ送信権限を持っているユーザーや、アクティブで体重に基づかないプロトコルを含む、少なくとも1つのプロトコルライブラリに対する権限を持っているユーザーは、CADD®-Solis または CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプにプロトコルライブラリを送信できます。

**注:** 管理者がユーザーにライブラリ権限を提供しなかったり、またはライブラリのいかなるプロトコルも アクティブにしなかった場合、ユーザーはプロトコルライブラリを選択したり送信することができません。

**プロトコルライブラリをポンプに送信するには:**

1. ポンプをコンピュータに接続しポンプをコンピュータに接続し、ポンプが電源が入っていて停止していることを確認します(ポンプの使用に関する情報に関してはポンプの取扱説明書を参照)。ライブラリをCADD®-Solis ポンプに送信するとき、ポンプはホーム画面の状態であればなりません。
2. CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator で、**ポンプ通信 > CADD®-Solis ポンプ > ライブラリ送信**を選択します。
3. ライブラリ送信権限を持っているユーザーアカウントでログインしていない場合は、次に進む前にユーザーIDとパスワードの入力を求められます。
4. [ライブラリ送信]ダイアログボックスで、ポンプに送信するプロトコルライブラリを選択します。

**注:** [ライブラリ送信]ダイアログボックスには、体重に基づいたプロトコル以外の、ログインしたユーザーが使用権限があるアクティブなプロトコルを含むプロトコルライブラリのみ表示されます。

5. **ポンプに送信**をクリックします。(選択したプロトコルライブラリに含まれるプロトコルの詳細を含むライブラリ送信レポートを表示・印刷するには、**[印刷]**をクリックします。

[ライブラリ送信]ダイアログボックスにはステータスと、プロトコルライブラリのポンプへのダウンロードが完了した日時を示すメッセージが表示されます。プロトコルライブラリがダウンロードできなかった場合は追加情報が表示されます。

6. 完了したら**閉じる**ボタンをクリックします。

---

**警告:** ポンプのプログラミング後には必ずポンプのプログラムをよく確認し、ポンプのプログラミングが完了したことを検証してください。これを怠った場合ポンプに不適切なプログラミングが行われることがあり、投与している薬液の種類によっては患者が死亡または重傷を負う恐れがあります。

---

## プロトコル送信

注： CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプ専用。プロトコルを CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプまたは CADD-Prizm® PCS II 携帯型輸液ポンプに送信するには、CADD®-Solis Medication Safety Software–Point of Care アプリケーションを使用する必要があります。

プロトコル送信権限を持っているユーザーや、アクティブなプロトコルを含む、少なくとも1つのプロトコルライブラリに対する権限を持っているユーザーは、CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプにプロトコルを送信できます。

プロトコルをポンプに送信するには次の手順に従ってください。

1. [ポンプをコンピュータに接続し](#) ポンプをコンピュータに接続し、ポンプが電源が入っていて停止していることを確認します(ポンプの使用に関する情報に関してはポンプの取扱説明書を参照)。プロトコルをCADD®-Solis VIP ポンプに送信するとき、ポンプはホーム画面になければなりません。
2. CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator で、**ポンプ通信 > CADD®-Solis ポンプ > プロトコル送信**を選択します。
3. プロトコル送信権限を持っているユーザーアカウントでログインしていない場合は、次に進む前にユーザーID とパスワードの入力を求められます。
4. [ライブラリを選択]ダイアログボックスで、送信するプロトコルを含むプロトコルライブラリをクリックして選択してから**続行**をクリックします。
5. [プロトコルを選択]画面で、治療、種別、および薬剤を選択します。選択してから**[続行]**をクリックします。

プロトコルを体重に基づいたプロトコルとして定義した場合は、[体重に基づいたプロトコル](#)ダイアログボックスが表示されます。それ以外の場合は直接、編集/レビュー画面に移ります。

6. プロトコルで表示・編集可能と定義された患者別設定パラメータが[編集/レビュー]画面上に表示されます。編集可能な患者特定パラメータが使用できる場合はフィールドに編集可能な値が表示されます。編集可能な値を入力して変更したり、TAB キーを使用して次の編集可能なパラメータに移動したりすることができます。また、編集可能なパラメータの右側にある上ボタンや下ボタンを使用して、値を変更できます。マウスを使用して、黒いスライド式矢印をクリックしてドラッグすると値を選択できます。

注： パラメータをプロトコルで定義したソフトリミットの範囲外に設定すると、そのパラメータに対して黄色の表示が出ます。プロトコルで、ソフトリミット範囲外の値を入力した場合にコメントの追加が必要な場合、コメントを入力ダイアログボックスが表示されます。

7. CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプでは： プロトコル設定を基に送液プロファイル(一定期間に投与する薬剤の量)をグラフ表示するには、**[保存]**ボタンの左側にあるグラフボタンをクリックします。
8. 患者別設定パラメータを編集した後**ポンプに送信**をクリックします。
9. プロトコルに対して第2承認者による承認や薬剤検証が必要な場合は、そのような検証の提示を求められます。第2承認者による承認には、プロトコル送信権限を持っている別のユーザーがユーザーID とパスワードを入力する必要があります。薬剤の検証には、

投与する薬剤に相応する薬剤 ID を(キーボードまたはバーコードスキャナーで)入力する必要があります。

---

**警告:** バーコードをスキャンして薬剤コードを読み込む際は常に、スキャン後に正しいバーコード情報がプログラムに入力されたことを確認してください。これを怠った場合ポンプに不適切なプログラミングが行われることがあり、投与している薬液の種類によっては患者が死亡または重傷を負う恐れがあります。

---

10. [ポンプに送信]ステップで、ポンプの接続ステータスに関するメッセージが表示されます。ポンプの接続を検証します。接続ポンプの全設定が上書きされます。送信で続行するか**閉じる**で取り消します。
11. プロトコルをポンプに送信したら、正しいプロトコルが受け取られているかポンプを確認します。

---

**警告:** ポンプのプログラミング後には必ずポンプのプログラムをよく確認し、ポンプのプログラミングが完了したことを検証します。これを怠った場合ポンプに不適切なプログラミングが行われることがあり、投与している薬液の種類によっては患者が死亡または重傷を負う恐れがあります。

---

## 履歴取得

**注:** CADD®-Solis 携帯型輸液ポンプ、CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプに限ります。イベントログを CADD-Prizm® PCS II ポンプから得るには、Point of Care アプリケーションを使用しなければなりません。

CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator では管理者またはシステム権限を持つユーザーが、CADD®-Solis 携帯型輸液ポンプまたは CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプから履歴のダウンロードやイベントログの表示を行うことができます。履歴をポンプから取得すると、CADD™-Solis Medication Safety Software データベースに保存されます。履歴を取得すると、ポンプレポートが表示・印刷・エクスポートできます。

履歴を取得するには次の手順に従ってください。

1. [ポンプをコンピュータに接続し](#)、ポンプが電源が入っていて停止していることを確認(ポンプの使用に関する情報に関してはポンプの取扱説明書を参照)します。
2. メニューバーから **ポンプ通信 > CADD®-Solis ポンプ > 履歴を取得** を選択します。
3. [レポート]ウインドウで、適切なポンプタイプ: **CADD®-Solis Pump** または **CADD®-Solis VIP Pump** をクリックして選択します
4. **ポンプから現在のデータを取得** をクリックします。
5. オプションの患者IDを割り当てて、最後の新規患者が開始してからポンプで発生した新規イベントをすべて関連付けるか、**患者IDを使用しない**を選択して、ポンプのデータをポンプのシリアル番号に関連付けます。一部の[ポンプレポート](#)は患者IDが割り当てられるよう要求します。

**注:** イベントと患者 ID を関連付ける際も今後のレポート表示のため、すべてのイベントがポンプのシリアル番号と関連付けられます。

6. **イベントを取得**をクリックします。データ送信が完了した場合、"履歴データがポンプから受信されました"というメッセージが表示されます。このメッセージが表示されたら **OK** をクリックします。

**注:** ポンプとの接続が切れたことやポンプとの通信に失敗したことを示すメッセージが表示された場合は、**OK**をクリックし [USBケーブル接続](#)を確認してから再試行してください。

7. 表示できるレポートやレポートの表示・印刷・エクスポート方法の説明は、[ポンプレポート](#)を参照してください。

## レポート

### ログレポート

ログレポートは、データベースから出される CADD™-Solis Medication Safety Software アプリケーションのレポートです。

**注:** ポンプからダウンロードしたイベント履歴から表示・印刷できる [ポンプレポート](#)または事前に定義されたレポートを参照してください。

ログレポートを表示するには次の手順に従ってください。

1. メニューバーから **ログレポート > ログレポートを表示**を選択します。
2. [ログレポート]ウインドウのドロップダウンメニューを使用して、作成するログレポートを次の中から選択します。
  - **Administrator 使用ログ:** このレポートには Administrator のさまざまな使用イベント、その日時、関連付けられたユーザーが記録されています。
  - **継続的品質インジケータ:** このレポートには、範囲外で値を選択した場合や薬剤IDの検証に失敗した場合などの出来事が記録されています。
  - **ポンプに送信されたライブラリ:** このレポートには、CADD®-Solis 携帯型輸液ポンプ、CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプに送信されたプロトコルライブラリが記録されています。レポートにはユーザーID、日時、ポンプのシリアル番号、ライブラリ名とバージョン、ライブラリの最終変更日が含まれます。
  - **Point of Care 使用:** このレポートには Point of Care アプリケーションのさまざまな使用イベント、その日時、関連付けられたユーザーが記録されています。
  - **Administrator により変更されたプロトコル:** このレポートには Administrator ユーザーにより加えられた全プロトコルへのあらゆる変更が記録されています。
  - **ポンプに送信されたプロトコル:** このレポートには、日時、ポンプのシリアル番号、プロトコルを送信したユーザーの ID、プロトコルの治療、種別、薬剤名など、ポンプに送信したプロトコルの詳細が記載されています。このレポートは CADD®-Solis VIP ポンプのみに適用されます。
  - **ポンプ使用一覧:** このレポートには、ポンプのシリアル番号、送信したライブラリやプロトコル、ポンプ履歴の取得、ポンプ ID の取得・送信イベント、イベントを開始したユーザーの関連 ID など、ポンプの使用に関するデータが含まれています。
3. 選択したレポートの種類に関して、ドロップダウンリストを使用して検索条件を選択をします。表示されるフィルタリングは選択したレポートによって異なります。

#### 4. レポートを表示をクリックします。

**注：**「ログレポートの入力項目が見つかりました」というメッセージに多数の入力項目が表示された場合は、検索の絞込みを検討してください。

**注：** Administrator プログラムが複数のポンプアプリケーション用に構成されている場合は、一部のレポートの種類に関してポンプをドロップダウンメニューから選択しなければならないことがあります。

使用ログの表示には CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator プログラムが必要です。このため、ネットワークに接続せずにローカルデータベースを使用しているコンピュータで使用ログを表示するには、CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator がインストールされている必要があります。

[ログレポートを表示]ウィンドウからは、ツールバーのプリンタアイコンでレポートを印刷したり、ツールバーのエクスポート(フロッピーディスクのアイコン)ボタンをクリックしてレポートをエクスポートすることができます。レポートは Microsoft® Excel® ファイルまたは PDF ファイルでエクスポートできます。

#### ポンプレポート

CADD™-Solis Medication Safety Software – Administrator は、プロトコルライブラリを CADD®-Solis 携帯型輸液ポンプや CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプのポンプレポートを多数生成します。これらのレポートを表示するにはまず、ポンプの [イベント履歴を取得](#) する必要があります。

ポンプレポートを表示するには次の手順に従ってください。

1. [ポンプの履歴を取得](#) します。
2. 選択したポンプの[レポート]ウィンドウで、**レポートを表示**をクリックします。
3. レポートタイプをクリックして選択します。
4. レポートの検索条件を入力し(フィルタリングはレポートによって異なります)、**レポートを表示**または**グラフを表示**(該当する場合)をクリックすると、レポートまたはグラフが表示されます。
5. レポートウィンドウからは、ツールバーのプリンタボタンでレポートを印刷や、ツールバーのエクスポート(フロッピーディスクのアイコン)ボタンでレポートをエクスポートすることができます。レポートは Microsoft® Excel® ファイルまたは PDF ファイルでエクスポートできます。

**注：** 図形情報を含むレポートをエクスポートする際は、PDF フォーマットを使用したほうがきちんと表示されることがあります。エクスポートした Excel ファイルにはエクスポートしたデータがすべて含まれますが、グラフをきちんと表示するには手動でフォーマット化しなければならない場合があります。

#### CADD®-Solis 携帯型輸液ポンプのレポート：

- **PCA 状況レポート：** これには投与した薬液の累積量、PCA 投与量、表示された期間に投与・試行した PDA 投与量が表示されます。このレポートは患者 ID とプロトコルを使用してフィルタリングする必要があります。



- **投与履歴 円グラフ：** このレポートには表示された期間の持続投与速度、PCD 投与量、随時投与別に、投与された治療の内訳が表示されます。このレポートは患者 ID とプロトコルを使用してフィルタリングする必要があります。
- **送液ログ：** このレポートは送液に関するイベントのログを表示します。各イベントには日時が刻印されています。このレポートは患者 ID とプロトコルを使用してフィルタリングする必要があります。
- **PCA および間欠ボーラスグラフ：** このレポートは、選択された期間中に投与された間欠ボーラス投与回数と、投与および試行された PCA 投与回数を表示します。このレポートは患者 ID とプロトコルを使用してフィルタリングする必要があります。
- **間欠ボーラスグラフ：** このレポートは、選択した期間中に投与された間欠ボーラス投与回数を表示します。このレポートは患者 ID とプロトコルを使用してフィルタリングする必要があります。
- **継続的品質インジケータ：** これは治療、ポンプ使用のトラブルシューティングや分析に使用できるアラーム、障害などその他のインジケータに関するレポートを集めたものです。このレポートは日付範囲とプロトコルを使用してフィルタリングする必要があります。
- **イベントログ：** このレポートでは次の種類のイベントを表示します：このレポートでは、時間別投与と合計、送液、アラームコードやエラーコード、電源の変更、カセットの変更、プロトコルライブラリの変更、ポンププログラミングの変更、ポンプ設定の変更などのイベントの種類を表示します。このレポートはポンプのシリアル番号または患者 ID を使ってフィルタリングします。

#### CADD®-Solis VIP 携帯型輸液ポンプのレポート：

- **PCA 状況レポート：** これには投与した薬液の累積量、PCA 投与量、表示された期間に投与・試行した PDA 投与量が表示されます。このレポートは患者 ID とプロトコルを使用してフィルタリングします。
- **所定カウンタ：** これには PCA 以外のすべての送液モードに関し、投与した薬液の累積量が表示されます。このレポートは患者 ID とプロトコルを使用してフィルタリングする必要があります。
- **投与履歴 円グラフ：** このレポートには、選択した治療に特定した部分の送液情報が表示されます。このレポートは患者 ID とプロトコルを使用してフィルタリングする必要があります。
- **送液ログ：** このレポートは送液に関するイベントのログを表示します。各イベントには日時が刻印されています。このレポートは患者 ID とプロトコルを使用してフィルタリングする必要があります。
- **継続的品質インジケータ：** これは治療、ポンプ使用のトラブルシューティングや分析に使用できるアラーム、障害などその他のインジケータに関するレポートを集めたものです。このレポートは日付範囲とプロトコルでフィルタリングします。
- **イベントログ：** このレポートでは次の種類のイベントを表示します：このレポートでは、時間別投与と合計、送液、アラームコードやエラーコード、電源の変更、カセットの変更、プロトコルライブラリの変更、ポンププログラミングの変更、ポンプ設定の変更などのイベントの種類を表示します。このレポートは患者 ID またはポンプのシリアル番号でフィルタリングします。

**CADD**<sup>®</sup>



**Manufacturer:**  
**Smiths Medical ASD, Inc.**  
6000 Nathan Lane North  
Minneapolis, MN 55442 USA  
Tel: 1 800 258 5361 (USA/CA)  
Tel: +1 614 210 7300

**CE**  
0086



**European Representative**  
**Smiths Medical International Ltd.**  
1500 Eureka Park, Lower Pemberton  
Ashford, Kent, TN25 4BF, UK

[www.smiths-medical.com](http://www.smiths-medical.com)

CADD-Solis, CADD-Prizm, and the CADD and Smiths Medical design marks are trademarks of Smiths Medical. The symbol ® indicates the trademark is registered in the U.S. Patent and Trademark Office and certain other countries. All other names and marks mentioned are the trade names, trademarks or service marks of their respective owners.

© 2011, 2016 Smiths Medical. All rights reserved.

2018-05  
10016681-001

**smiths medical**